

(5) 能生川の環境保全に関する研究

1	実証講座名	能生川の環境保全に関する研究
2	連携先および 講師名	公益財団法人 リバーフロント研究所 研究員 阿部 充
3	実施日時	平成28年7月21日(木) 4～5限(2コマ)
4	実施場所	本校視聴覚教室
5	受講者	海洋創造コース2年 マリン技術コース3年
6	受講人数	2年20名 3年13名 計33名
7	授業科目名	海洋環境
8	実施の概要	連携機関による講演
9	効果および ねらい	研究を通して、河川環境の改善・整備事業および治山・治水事業への提案ができるようになる。
10	実施内容	① 河川構造物や回遊魚に配慮した工法についての講演を通して、環境に適応した改善・整備事業の最先端事例を紹介する。 ② 地球温暖化などの環境変化に伴って変動する河川環境を理解し、環境保全への意識を養う。
11	講座の内容	<p>地球温暖化という環境問題を入りに抗す量、生物の分布の移動、冷水性の魚種の減少などについて講義を行った。また、治水を主眼においた河川改修の影響を、古写真を用いて振り返ったほか、近年の環境を重視した「多自然かわづくり」による工法の事例を把握させた。事前再生事業により、アユの遡上範囲が拡大した話や、岩盤が露出した河川に礫をたいせきさせる工法などの最先端事例への理解を促した。</p> <p>講演中、生徒は気になった内容をメモしていた(写真1)。授業の後には学習した内容を小レポートとして提出させ、評価を行った。</p>
	写真1 講義の様子	

12	効果の検証 および課題	<p>河川改修による生物への影響などについて述べられていたほか、気温と水圏環境の変動についてまとめられていた。また、河川改修へ生徒は興味をもって話を聞いていた。さらに、昔の河川の状況を踏まえてこれからの改修のあり方を考察していた。</p> <p>課題としては2点挙げられる。1点目は、講演の内容が大学生を対象とするようなレベルで、内容に追いつけない生徒は難しいようである。内容が盛りだくさんであったため、厳選してもらうような配慮が必要である。また、講演の内容をより理解させるための事前学習を授業のなかであらかじめ実施し、ストーリー性を持たせることが大切だと感じた。2点目は、講演を受け、生徒がどのように思ったか、何に関心を持ったかを把握し、今後の授業で取り扱っていくとともに、身近な地域の内容と関連づけ、実習として実施できる内容に繋げていく講演内容にする必要があると思われる。</p>
----	----------------	--